長洲町立長洲小学校　校長便り　No.４８

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和４年１１月１１日(金)

経験則⑤「本当の友だちとは」#1

以前、みんなの居場所でお話しましたが、私には親友と呼べる友達は2人しかいません。友達は多い方ですが、小学校から付き合いが続き、「言いたいことが言い合える」友達、あるいは「お前にしか話せない話ができる」友達、「遠慮しないでいい」友達は2人だけです。この点を踏まえて、今の子供達における「友達関係」の現状を、私の個人的な視点で述べてみたいと思います。

最近、SNSが広がる中で「友達関係」にも変化が見られます。その弊害でしょうか、常に友達と繋がっていないと不安になる子供達が増えているような気がします。明治大学文学部教授の齋藤孝さんは、この状態をこう呼びます。

「友だちがいないと不安だ症候群」

ラインのやり取り等で「既読スルー」なんて言葉がありますが、返事が無いから友達じゃないって考え方自体がナンセンスです。本当の友達ならば、返事が無い時に相手を思いやり「忙しいんだろうな」とか「携帯から離れているんだろうな」と考えることで問題は解決します。そこには互いの信頼関係があります。「話をしなくたって分かるよ、お前のことは」というような意思の疎通があるのです。逆に「精神的な幼さ」「弱さ」のある子供達は、このように相手を慮ることができません。常にグループをつくり、そのグループから阻害されない様にいつもびくびくしていて、グループメンバーに嫌われないように自分の意思とは関係ないところでやたらと気を遣っています。このような関係は切磋琢磨の友達関係ではなく、「つるむ関係」であって、本当の友達関係でないことは明白です。「つるむ関係」は往々にして周囲に悪影響を及ぼします。大体の場合、「つるむ」子供達の特徴として、「1人になることができない」、「精神的に弱い」、「正義や真面目をバカにする」、「1人になると何もできない」等が挙げられます。そして、このようなグループは低いレベルでの「仲間意識」が生まれ、自分達に都合の悪いことや考え方、風土を駆逐しようとします。それは社会的に見ると非常に卑怯な行動です。そもそもこのような行動は客観視するととても格好悪いですね。そして卑怯な行動を続けていると社会的な成熟は望めず、いわゆる立派な人間にはなれません。私達の経験則からすれば、このような子供達は一般社会に出る前に、周囲から仲間（と思っていた人）達がいなくなります。具体的な実現をすると、例としては中学校で友達となじめない、小学校での立場が逆転していじめに遭う、等です。真面目に正義を貫いた子供達が精神的に成熟していくと、コミュニケーションの基本はフェイス・トゥ・フェイス、即ち直接のコミュニケーションを重要視するようになります。そしてSNSは単なる連絡手段として存在するようになり、冷静且つ効果的活用ができるようになります。直接のコミュニケーションは親友を作るきっかけとなり、長い間連絡が取れていなくとも、いつでも同じように接することができるようになるのです。私の親友もそうです。1年ぶりであっても、話題は充実していた青春時代に戻ります。それは何故でしょう。この理由については次回へ続きます、お楽しみに。

シリーズ「自分を語る」#48

卒業を意識し始めた2月の終わり、そろそろ卒業式の練習が始まる頃でした。子供達からの提案がありました。それは卒業式での「呼びかけ」を自分たちで考えたいというものでした。提案があった時は少々面喰いましたが、呼びかけにナイトハイクのことを盛り込みたかったのでしょう、提案する目に真剣さが感じられましたので、数名のメンバーが「呼びかけ製作委員」として頑張ることになりました。そして卒業式当日…。呼びかけの一部はこうでした。

夏の挑戦　42、195㎞の　ナイトハイク
初めての挑戦でした
歩き通した仲間がいました　車に乗る仲間もいました
みんなと歩き通したかった　だから　僕たち　私たちは　明日
再挑戦します　後悔しないために　絶対に歩き通します

こんな感じで呼びかけが続いていきました。そう言えば卒業式当日、保護者の皆様も子供達もあまり泣いていなかったような気がします。当たり前と言えば当たり前だったのかもしれません。翌日には42、195㎞歩く訳ですから、そちらの方に気持ちがいっていたのかもしれません。大人も子供も、卒業式より歩き終わった後の方が、涙が多かったようです。

さて、ナイトハイクのリベンジのコースを紹介します。JR内牧駅を出発、国道57号線を立野まで行き、途中から県道207号線、県道36号線、熊本空港を経て嘉島西小学校に至るルートです。昼間に歩くということは朝7時ごろにはスタート位置にいなければなりませんので、こちらを出発したのは午前5時頃でした。子供達と保護者の皆さんは卒業ムードに浸る時間もなく早寝早起きをしなければなりません。しかし、それに誰も文句を言わず、集合場所に集まりました。午前4時頃、JR南熊本駅には賑やかな声が聞こえていました。全員集合したのは集合時刻の30分前で、列車の出発までまだ1時間30分ありました。

この時初めて、私の企画する行事に教え子達が参加し始めます。当時、龍田小学校での教え子達は高2から高3に進級する時期でした。私の最初の教え子は、平成元年度龍田小学校の5年生でした。その子達がすでに高2でした。この子達の数名は常に私と連絡を取り合っていましたので、「嘉島西小学校の6年生と一緒に42、195㎞歩け！」というと、あっさり5名程のサポーターの参加となりました。彼らも高2から高3にかけての時期、進路や就職、自分の人生について少し悩んでいたようで、私の意見を聞きたかったようでした。だから参加したのかもしれませんね。（そう言えば、この時の教え子達の中から3名の教師が誕生し、今でも繋がりを持ちながら、節目節目に連絡を取り合います。）ただ、この参加を機に当時の教え子達もきめ、行事の達成感を味わうべく、更には同窓会的なイベントに心躍らせるような雰囲気も感じられるようになりました。様々な行事に多くの教え子達が参加してくれるようになったのは、ここが原点であり、今でも教え子たちの“縦割り活動”が展開中です。行事をサポートしながら、「おまえ何年卒澤田組？」「いつの澤田先生の教え子？」等の会話が聞こえてきます。　（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）